

令和 2 年度 学校自己評価システムシート (県立進修館高等学校)

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」を支援して確かな学力の確実な定着・向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。 2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。 3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、地域から期待される学校を目指す。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	7名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	7名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月5日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○授業力向上に向けたこれまでの成果を踏まえ、さらに主体的な生徒の学びを促し、教員・生徒間のやり取りが活発な授業を展開する必要がある。また、学習習慣の定着を促す指導も必要である。	○基礎学力の向上及び定着と主体的な学びを促す授業の実施に向けた工夫及び改善	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒に見合った「主体的・対話的で深い学び」を実践する授業研究及びICTの積極的な活用 ・基礎学力の向上に向けた授業の工夫・支援の充実、学習会の実施 ・学習習慣の定着を促す指導の充実 ・基礎力診断テストを活用しての事前指導・事後指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科内で互見授業及び授業研究を実施したか ・授業力向上研修会を実施したか ・家庭学習時間が増加したか ・土曜勉強会の参加者が増加したか ・基礎力診断テストのGTZの数値が上がったか 	<p>○限られた環境の中で授業力向上に取り組んだ。生徒の主体的な学びの姿勢は概ね良好であった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月に授業見学週間を設定し授業研究を実施した。 ・1月29日、観点別評価に関する研修会を実施した。 ・授業外学習の状況については生徒、保護者、教職員の意識に大きな乖離があり、さらなる検証が必要。 ・土曜勉強会の参加生徒数は151名(2回分)で、昨年度344名(4回分)より減少した。 ・基礎力診断テストのGTZの数値推移は、2・3年生では上位層が減少したが、1年生は上位層が増加した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の取組や生徒の主体的な学びを引き出す取組は成果を上げているものの、コロナの影響もあり土曜勉強会や進学補習などが昨年度と同様に行えなかった。授業外学習に対する生徒、保護者、教職員の意識には大きな差があるため、生徒の学習習慣の状況を把握し、実態に即した学力向上の取組につなげることが課題である。 ・コロナ禍で混乱もあったが、本校の進路指導に対する生徒や保護者からの評価は概ね高かった。また、約9割の生徒が第一志望やそれに準ずる希望での進路先を決定している。資格取得・検定合格では、特に、工業科で顕著な成果を残している。きめ細かくて組織的な進路指導体制を今後も維持し続けることが課題である。
	○第一志望をかなえる進路指導に組織的、計画的に引き続き取り組むとともに、大学進学指導、資格取得や検定試験合格に向けた指導をより充実させる必要がある。	○生徒の主体的進路選択を促す指導と第1志望をかなえる組織的、計画的進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科、進路指導部が緊密に連携した組織的進路指導の実施 ・進修館手帳の効果的な活用による進路意識高揚に向けた指導 ・生徒・保護者への適切な情報提供 ・進学補習、資格取得や検定試験合格に向けた指導の充実 ・生徒の能力や適性に見合ったミスマッチを防ぐきめ細かな就職指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的、計画的な進路指導が実施できたか ・進学補習への参加生徒数が増加したか ・進修館手帳を効果的に活用できたか ・保護者への進路情報を随時提供したか ・生徒・保護者アンケートの「きめ細かな進路指導を行っている」割合が増加したか ・第1志望進路決定率が増加したか ・資格取得及び検定合格率が向上したか 	<p>○困難な状況であったが、学年・教科・進路指導部が連携し、組織的、計画的な進路指導を展開した</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度の進学補習参加生徒数は、延べ66名で、昨年度延べ152名と比較して大きく減少した。 ・進修館手帳は昨年度と比較して活用されつつあるが、更なる活用の余地がある。 ・進路情報提供に関する保護者アンケートでの高評価の回答割合は、78%(昨年度76%)であった。 ・「きめ細かな進路指導を行っている」とアンケートで回答した割合は生徒86%(昨年度79%)、保護者85%(昨年度82%)であった。 ・第1志望やそれに準ずる希望で進路を決定した生徒は85%で、昨年度(86%)とほぼ同じ(3月末現在)。 ・資格取得及び検定合格率は、種別により結果が異なった。 	A	
2	○基本的生活習慣の確立や規律指導の徹底に向けて、全校体制で粘り強く生徒指導に取り組むことが喫緊の課題である。 ○いじめ、特別支援、学校不応、不登校等に対応するため、生徒の心のケアに取り組むとともに教育相談体制を整備する必要がある。	○基本的生活習慣と規律ある態度の育成に向けた組織的、継続的な生徒指導の実施 ○個々の生徒の情報交換及び情報共有による早期対策	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活における規律指導の「凡事徹底」 ・頭髪・服装指導等の組織的な指導 ・教育相談機能の整備と適切な対応 ・アンケートや面談を通した生徒の心の悩み・不安の把握及びその支援 ・「いじめ防止対策推進法」や「障害者差別解消法」に基づく校内体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の乱れによる遅刻及び欠席が減少したか ・問題行動発生件数が減少したか ・生徒アンケートの、規律ある態度の育成に係る各項目で改善が見られたか ・アンケートや面談等を通しての生徒の心のケアができたか ・いじめや特別支援教育に関する校内研修会を実施したか 	<p>○基本的生活習慣の確立・規律ある態度の育成という点で、昨年度より改善できた点が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較して、1・2学期の遅刻者数は23%減、欠席者数は32%減となった(延べ人数)。 ・問題行動発生件数は、昨年度同時期比で微増した。 ・規律指導に関するアンケート結果は、生徒・保護者とも95%が高評価(昨年度は生徒89%、保護者93%)だった。 <p>○要支援生徒へのサポート体制を整備し支援に当たった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校とSCが連携し要支援生徒・保護者へのサポートに継続的に取り組んだ。支援会議・ケース会議も実施した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的生活習慣の確立と規律ある態度を育成する指導は、本校教育活動のすべての基礎である。基本的生活習慣の乱れや問題行動に対しては引き続き、粘り強く全校で指導に取り組むとともに、要支援生徒への更なるサポート体制を構築することも今後の課題である。 ・部活動及び学校行事に関しては、極めて限定的な実績となったが、コロナ禍において、生徒も教職員も最大限努力してきたものと考え。前例のないコロナ対応は大きな負担となったが、本年度の取組の成果を、次年度の教育活動に生かしたい。
	○部活動や学校行事での充実と活躍が学校の一体感、盛り上がりなどに大きく関わる。教職員の負担を軽減しながら、部活動・学校行事を活性化させることが課題である。	○部活動や学校行事等における生徒の主体的活動の促進と活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入の積極的奨励及び未加入者への指導 ・部活動間の交流と活動実績の向上 ・生徒会活動を基に生徒が主体となった学校行事等の活性化 ・教職員の負担軽減と部活動・学校行事の活性化の両立 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入割合が増加したか ・部活動において顕著な活動実績が見られたか ・生徒アンケートで「学校行事に積極的に参加した」割合が増加したか ・教職員の負担感が軽減したか 	<p>○部活動、学校行事は限定的となったが、生徒・保護者からの評価は概ね高かった(アンケート結果から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入割合は82%で、昨年度87%より微減した。 ・陸上競技部、写真部が全国大会出場。 ・「学校行事に積極的に参加した」と回答した生徒の割合は95%で、昨年度88%より大きく増加した。 ・コロナ禍の影響で部活動や学校行事の業務が限定的となった一方、コロナ対応に係る教職員の負担は大きく増加している。 	B	
3	○総合学科、工業科を併せ持つ本校の魅力を、教職員の働き方改革を意識しながら、さらに効果的に地域の中学生に発信していく必要がある。	○多様な情報発信の継続と工夫改善 ○中学生対象の広報活動の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信を活用した効果的広報 ・学校HPの内容工夫による効果的な情報発信 ・地域活動への積極的な参加 ・本校の魅力をさらに効果的に伝えることのできる学校説明会等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の行事等に参加した回数が増えたか ・学校説明会の参加生徒数が増加し、全学科において1.1倍を超える受検者の応募があったか 	<p>○コロナ禍で地域との連携は限定的となった</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で、昨年度のように地域の行事に生徒を派遣することはできなかった。 <p>○限られた中で、学校説明会等に最大限取り組んだ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会参加生徒数は、参加者数制限を設けたため、延べ643名(昨年度723名)で減少した。受検者の志願倍率が1.1倍を超えた学科はなかった(2月末)。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学科や系列を併せ持つ本校の魅力と多様性は他校にはない大きな強みであるが、その良さを例年どおりに発信することが困難であった。コロナ禍における地域連携の在り方を確立することが今後の課題である。 ・2年目を迎えた「行田學」では、地域連携がより強化され、地域資源を活用した探究学習もスタートすることができた。本取組での生徒の主体的な学びを深めることが今後の課題である。
	○地域資源(行田市教委、市内関係機関、同窓会等)との連携を通した「総合的な探究の時間(行田學)」の充実・改善により地域に根差した教育活動を推進する必要がある。	○「行田學」の充実・改善を通しての地域に根差した学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・「総探委員会」を中心とした3年間を見据えた「行田學」の企画・運営・実施 ・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携した教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・「行田學」の講座や探究活動を通して地域と連携した教育活動を実施できたか ・生徒アンケートで「行田學」に対する肯定的評価が8割を超えたか ・行田市教委、市内関係機関、同窓会と連携・協力することができたか 	<p>○「行田學」を通じた地域連携を深めることができた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総探委員会を中心に、1年次の指導の改善、2年次の探究学習の進行計画を整えることができた。 ・実施後の生徒アンケートでは「わかりやすかった」「興味を持った」「一生懸命取り組んだ」等の肯定的評価の生徒の割合が95%だった(1・2年生平均)。 ・行田市教委、地元企業、忍郷友会、行田音頭保存会等と連携を深め、教育活動を展開できた。 	A	

学校関係者評価
実施日 令和3年2月25日

○基礎学力の向上及び定着を大事にし、また、専門的な知識、技術を学べる学校環境が素晴らしいと思う。
○多様な学習の在り方を検討し、質の高い学びを充実させる様々な取組をしている。
○コロナ禍により、Meetなどでプロジェクターを使用することが増え、授業でも使用機会を増やしていくことで学習理解が深まると思う。
○生徒の希望、適性を考えた進路指導が行われており大変素晴らしい。
○様々な系列があるので、生徒の進路意識が広がり、学力向上に繋がっていると思う。進路選択の幅も広く、先生方も親身に相談にのってくれる。
○進路決定がまだ途中の生徒達に、自分は将来何になりたいか、本人の希望が叶えられる導きをお願いしたい。

○校外でもしっかりと挨拶できる生徒が多く、気持ち良い印象を受けている。
○基本的生活習慣や態度、挨拶など、人として当たり前のことのできる指導と、多様化する一人一人にあった指導を引き続きいていねいに進めてほしい。
○部活動は、人間形成のためのよい機会であるため、部活動へのさらなる積極的な参加を勧めてほしい。
○充実して満足できる高校生活が少しでも送れるよう工夫と努力をされた様子が、アンケートの結果からうかがえる。
○コロナ禍ではあるが、感染症対策に留意しながら、学校行事をできるだけ行ってほしい。

○HP等での情報発信により、コロナ禍でも生徒たちが元気に明るく学校生活に取り組んでいる様子が知れてとても嬉しい。
○生徒代表も学校説明会に参加して、昨年度のように中学生に話ができたら良かったと思う。
○総合学科と工業科を併せ持つ魅力を、中学生や保護者にもっとアピールしてほしい。
○「行田學」で地域を学び、知ること、今後の更なる発展になると思う。
○「行田學」に対して、生徒がもっと積極的になれたらよい。